
トンネル

葉月 影

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トンネル

【Nコード】

N7215M

【作者名】

葉月 影

【あらすじ】

どこかのトンネルの話。怖いのか、否か……。どっちでもうね。

とまあえず、ちょっと早いですがホラー……かな？

(前書き)

えー……。

今までの作品と違い、変です。

これは、とあるトンネルにまつわるお話なんだ。

僕も、噂で聞いた話だから、多少曖昧で、不明瞭な部分もある。

そこは、見逃してくれるとありがたい。

じゃあ、始めよう。

とあるトンネルの噂を……

これは1900年代に入るか入らないか、そんなぐらいの話。

そのトンネルのあった場所は、結構な山の中で、夜道は暗いから、事故もかなり多発していたらしいんだ。

でも、トンネルを壊すのは、結構なお金がかかるからそのままにしていたらしい。

Aさんは、休日、特にすることもなく、親に『また顔見せに、来いよ』って言われてて、実家に帰省してたらしいんだ。

Aさんの実家は、Aさんの家から一山越えた先にあって、行くのに3、4時間かかるらしい。

とりあえず、休日の間、実家に居たんだ。

明日、仕事で大事な用があるので、実家を出ようとしたんだけど、もう夕食時で、親に食べていけって、言われて食べることにしたんだ。

それで、結局実家を出たのは、午後9時過ぎ。

時間が時間だったからか、それとも場所のせいか、一台の車ともすれ違うこともなく、件のトンネルのある山に差し掛かった。

何気なく音楽を聴きながらトンネルを通り過ぎようとしたんだけど、いつもより長い気がする。

おかしいな………、なんて思いながら気に留めずそのまま走り続けた。

でも、30分たっても一向に出口が見えない。

このトンネルは、確か10分もかからないほど短いトンネルだったはずだ。

やっぱりおかしい………。

不安になって、アクセルを強く踏んでスピードを上げる。

でもやっぱり、出口は見えないまま……………。

落ち着こう、そう思って音楽のボリュームを上げようと、プレイヤーの音量のひねりを回そうとして、あれ?と思う。

いつの間にか、音楽が止まっていた。

リピートの設定にしていたはずなのに……………。

今度は、寒くなってくる。

やはり冷房はつけていなかったはず……………空調の方を見る。

メモリは0。

だけど、体の芯のほうから冷えていく。

そして気づくんだ。

こんなときってやけに感覚が鋭くなって、音も大きく聞こえるんだ。

車で、何か引きずっている音がする。

不安が余計に掻き立てられる。

こんな時だからなのか、Aさんは、車を端に止めて、その正体を見ようとする。

それで、後ろに回りこみ、その引きずっていたモノの正体は……
上半身、だけの死体。

それが、手を伸ばし車に掴まっていたのだ。

死体に触れるのは、気持ち悪いが、このまま引きずっているのは、
気味が悪い。

だから、車に触れている部分、つまり、掴んでいる手を外そうとし
た。

でも、指を外そうとしたとたん、爛れたような顔がこちらを振り向
き、見た。

目の在ったらしき場所でAさんを、見た。

Aさんと目が合ったとたん、ところどころない、唇を吊り上げ、ニ
ターツ、と笑った。

気味の悪くなったAさんは、手を引っ込めて素早く運転席へ向かお
うとするが、それよりも早く上半身だけの死体がAさんの手首を掴
む。

思いつきり、手を振り、その手を振り払おうとするのだが、全然外
れない。

それどころか、ゆっくりと着実に腕を上ってくる。

掴まれた腕を逆の手で叩いて外そうとしても、外れない。

死体とごちゃごちゃしているうちに携帯が、落ちた。

それを見るとビクツと、一瞬、体が硬直し、掴む力が弱まる。

その隙に手を振り切る。

これ幸いに、車の中へ逃げ込む。

まだ唸りをあげる死体を置き去りに、最速スピードで、逃げた。

そうすると終わりが見えた。

いつもの帰り道だ。

そのまま、自分の家まで走った。

その後、Aさんは、この時のことを友人や、会社の同僚に話してみ
るんだけど、全然信じてもらえない。

もう一回そこへ行ってみたけど、死体はなかった。

もう、ここまでしか僕は、覚えてない。

もし、この先の真相なんかを知ってる人がいたら、教えてくれませんか？

すみません。

では、この辺で。

(後書き)

これの真相はこうだ!!

あれ・・・ここってこうじゃないの？

など、あったら教えてください(懇願)

では、真相について知っている方、是非、葉月にメールか、感想でお知らせください。

じっくり来たものがあれば、それをのっけます。

でわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7215m/>

トンネル

2010年10月28日07時50分発行